



印度西天の論家 中夏口域への説教

願大聖興世正意 明如来本誓心機

十一月は下旬に入り、大忙しでした。前坊守（瞭子）の弟で、草津の順光寺に入寺していた私の叔父・八朗おじさんの二十七回忌法要があつて滋賀県まで行つてきました。もう少しになつてしまつた叔父さん叔母さんや、いとこたちの元気な顔を見ることができ、楽しい一日でした。帰つた翌日、今度は前住の従弟西山真澄さんの十七回忌法要を息子さんたちと勝林寺でお勤めました。私の曾祖父で今の勝林寺の本堂を明治四十年に建立した第十六世住職釈可生の末裔たちの集合でしたが、その日の夜から勝林寺の報恩講が始まり、夕方六時から御伝鈔（ごでんしょ）抨読する冒頭で、「聖人の俗姓（ぞくしょう）」は、藤原氏（とうじ）がら「有範（ありのり）の子（こ）なり」に至るまでの、とても長くて読みにくい、どうでもよいじやないかと思える親鸞聖人のルーツに、読む意味を重く感じる親鸞聖人が書かれたものではなく、聖人の曾孫にあたる本願寺ながら、勝林寺報恩講二日間を無事お勤めすることができました。

この御伝鈔はもちろん親鸞聖人が書かれたものではなく、聖人の曾孫にあたる本願寺第三代覚如上人が、三十三回忌の翌年、二十六歳の時に著されたものです。年忌の法事といふものをお勧めする中で、いつの世でも前の代とのつながりが記憶の中から薄らいでいくことに不安をおぼえ、その時に集う有縁の人々の記憶の断片をつないでルーツを確認し、今の自分が歴史の中に存在するもので

あることを再認識するのです。

身近な血縁関係の中で自分を確認するこども大切ですが、正信偈の中で親鸞聖人が示されたのは、広大無辺の法縁関係の中で見いだされる自分の存在です。インドで説かれた

仏教は、やがて中国へ伝えられ、朝鮮半島を経て日本へ伝えられました。「印度西天」とはインドのこと、「論家」とは、龍樹菩薩と天親菩薩のお二人です。中国の方は、雲鸞大師、道綽禪師、善導大師です。日本の方は、源信僧都、法然上人です。これらの五人の方を「中夏・日域の高僧」と言われています。ですから「印度西天の論家、中夏・日域の高僧」とは、七高僧のことです。数多く説かれた釈尊の教えの中から、本当に話したかつたお釈迦様の本意を受け取り、つなぎにつないで私のところに流れ着いたお念佛は、無数の精子と無数の卵子と無数の愛の中から今存在している我が命と同じく有難いものなのです。だからこそ、報恩講のお勤めの締めくくりは

“如來大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も 骨を碎きても謝すべし”と、恩徳讃を歌わせていただくのです。

コロナの影響で少し縮小版となつた寺の報恩講を無事勤め、ひと段落ののち、数年前から千葉医師が呼びかけられて動いている「但馬を結んで育つ会（TWS）」の一員として、但馬より先行して地域医療構想の実現を図り、医療、介護、福祉等の切れ目のないサービスを、将来にわたつて安定的に提供することを目指している「日本海ヘルスケアネット」の視察研修会に山形まで出かけてきました。

ハードな十一月下旬でしたが、これから皆さんのおうちの報恩講に向かいます。

（文責 住職）

ご報告

報恩講法要を
お勤めいたしました

本堂に、お正信偈をうたい、阿弥陀經をお見えする門徒の皆さん、精一杯のお莊嚴でお飾りし、阿弥陀さま

がいつも以上に優しく微笑んでいてくださる

ような気がいたしました。正福寺様のご法話

の縁に合わせていただき、親鸞聖人はもちろんのこと、前住や前坊守、父や母、そして

先に逝かれた有縁の皆様をゆづく「偲ぶ」

時間をいたしました。ありがとうございました。

お釈迦様の本意を受け取り、つなぎにつないで私のところに流れ着いたお念佛は、無数の精子と

無数の卵子と無数の愛の中から今存在して

いる我が命と同じく有難いものなのです。だ

からこそ、報恩講のお勤めの締めくくりは

時間をおいたくことができました。ありがとうございました。

年末年始の行事に
ご参加ください

二二月二十七日午後一時より
お餅つき

一〇日（金）矢根 報恩講
一一日（土）出合 総仏講
一二日（日）坂本政司宅 一周忌

一三日（月）成田里美宅 一周忌

一四日（火）谷垣 栄宅 七・二五回忌

一六日（木）丸中・片間 報恩講
暮坂 報恩講

一七日（金）百合・桐野・寺坂 報恩講

一八日（土）永井 實宅 忌明法要

一九日（日）口小谷 報恩講

二六日（日）大石英明宅 三回忌

二七日（月）お餅つき
二八日（火）大掃除
みのりを聞く会

一月一日 午前零時より修正会

除夜の鐘で一年を締めくくった後は、本堂で阿弥陀さまとともに新しい年を迎えて、ご挨拶いたします。

三一日（金）除夜会

一一月 勝林寺 予定

一日（水）奥小谷 報恩講

二日（木）小田 報恩講

三日（金）小田 報恩講

四日（土）小田 報恩講（托鉢）

五日（日）正法寺 報恩講（総仏講）

六日（月）市場 報恩講

七日（火）太田・東里 報恩講

八日（水）唐川 報恩講

九日（木）野尻・矢根 報恩講

富島賢吉宅 忌明法要

岡野 隆宅 二五回忌

七日（火）

八日（水）

九日（木）

十日（金）

十一日（土）

十二日（日）

十三日（月）

十四日（火）

十五日（水）

十六日（木）

十七日（金）

十八日（土）

十九日（日）

二十日（月）

二十一日（火）

二十二日（水）

二十三日（木）

二十四日（金）

二十五日（土）

二十六日（日）

二十七日（月）

二十八日（火）

二十九日（水）

三十日（木）

三十一日（金）

三十二日（土）

三十三日（日）

